

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490500089		
法人名	社会福祉法人キングス・ガーデン宮城		
事業所名	グループホーム階上ランチ	ユニット名	
所在地	宮城県気仙沼市長磯船原66		
自己評価作成日	令和 3年 2月 25日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年 3月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

階上ランチでは今年度の基本方針として「家庭的な雰囲気の中で信頼関係を育み、その人らしい暮らしづくりをお手伝いします」を掲げサービスを実施しています。
ご家族や地域と連携し、不安のない、笑顔あふれる日々が送れるよう支援します。
今年度は新型コロナウイルスの影響で、ご家族との交流や地域行事への参加ができませんでしたが、感染症対策を万全に実施し、できるだけ面会ができる機会をつくるよう取り組みました。また、天気の良い日は、外でお茶会を開いたりドライブに出掛けたりと、家の中に籠もらないように心がけ、心身共に健康であるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

階上小学校の東、国道45号線沿いに、平屋建ての「階上ランチ」がある。通所事業所と短期入所施設が同敷地内に併設されており、夜間災害時の協力や運営推進会議、介護に関わる情報の共有など生活に密着した連携が取られている。コロナ禍にあって、世相は外出自粛を常としているが、階上ランチでは、感染防止対策をとりつつ、「トイレ休憩無しで」「近場で」など工夫をしながら前年と変わらぬ頻度でドライブを楽しんでいる。「ここを最期の場所として楽しく過ごして頂きたい」「自分が入居したくなるホーム」を目指し、生活を楽しんでもらえるケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム階上ランチ)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と事業所理念を掲げています。事業所理念は令和2年度4月に職員全員で見直し作成しました。	「根付いた暮らしの中で、楽しく自分らしく、やさしさ・やすらぎを持って」の理念を職員皆で作った。終の棲家として「自分が入居するならどんなホーム」を主題に、日頃のケアを振り返りながら話し合った。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の会員になり、広報や地域だよりを入手し情報を得ています。町内会より花の苗をいただき利用者と職員で花植えを行いました。	地域住民から、サービスや介護保険についてなど電話相談を受けている。例年であれば、ボランティアがレクリエーションで楽しませてくれたり、外出の付き添い協力があった。地元の商店から食材を購入している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば、小・中学校の職場体験の受け入れを実施していますが、感染症対策で今年度は実施できませんでした。介護についての相談は電話で受け付けています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催しています。感染症対策で自治会館を会場としました。ホームの感染症対策や活動、近況報告を行い、助言をいただいています。	コロナウイルスの感染状況を見ながら、現在は文書での会議開催をしている。メンバーから、室内で出来るアクティビティの提案をもらったり、厚労省のコロナウイルスに関する文書を確認するよう助言があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が窓口となり、入所状況を報告しています。また、運営推進会議に出席していただき、情報交換を行なっています。	担当課に運営推進会議の開催について相談し、書面会議とした。市から手袋や消毒液の支援物資が届いた。ホームでの感染予防の取り組みを説明した。地域包括職員から認知症カフェ中止の報告があった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	概ね3ヶ月に1回身体的拘束適正化委員会を開催し身体拘束についての勉強会や日常のケアを見直しや尊厳のあるケアが行われているかを検討しています。	「身体拘束適正化委員会」を開催している。身体拘束をしないケアの実施を表した「身体拘束等の適正化のための指針」がある。「待って」などの対応で理由を説明しても入居者の同意は得られない、やさしい声の掛け方が大事など話し合った。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し知識を深めています。職員全員が高齢者虐待の前兆を理解し、虐待を未然に防ぐために利用者への言葉遣いや接し方について話し合える環境です。	何気ない言葉が不適切だったり、ロックされると自分から意思表示する気持ちを遮ることになり、ADLの低下につながるなどを勉強した。他職員の「不快な思いをさせないケア」を観察する学び方の提案があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解を深めるよう積極的に情報収集を行います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書をもとにサービスや入退所の際の注意点を時間をかけて説明し、不安がないよう話しを進めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に相談等をしやすいようコミュニケーションをとっています。運営推進会議にご家族に出席いただき、意見や要望を伺っています。	昨年11月から面会を自粛している。面会したいとの要望はあるが控えてもらっている。入居者の食欲低下を家族に相談し、本人が好きな食べ物を教えてもらった。僅かな事でも電話で連絡し合っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングの際に、業務改善について話し合います。	日勤の業務過重の意見があり分担を見直した。リフレッシュ休暇の活用で連休が取りやすくなった。「急ぐあまり手伝いすぎる」や「転倒リスクを理由にするのは職員の都合では」等の意見をケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の会話やミーティングの中で個々の現状の把握に努めています。希望休や有給休暇が取得できるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修や外部研修への参加を積極的に促しています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	気仙沼介護サービス法人連絡協議会の中で情報交換を行い、研修会等に積極的に参加します。	法人が介護職を対象に研修会を開催しており、その際にケアについての意見交換がある。気仙沼圏域認知症ケア向上研修会や感染症対策研修会に参加した。併設する通所事業所職員と日常的に交流がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談受付後に管理者と計画作成担当者が実態調査を行います。本人の意向を把握し職員間で情報を共有します。サービス利用開始前にホームの見学をお勧めしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後ご家族と職員と一緒にご本人の生活を支えていきたい旨を伝え時間をかけてご家族の意向を把握します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況の確認を行い、何が必要かを見極めるよう心がけ、その方にあった情報を提供します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること、できないことを見極め、一方的な支援にならないよう気をつけています。一緒に作業し、一緒に行動することでご本人との関係を深めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	わずかな変化もご家族に連絡・報告し情報を共有しています。意見交換も行い信頼関係を大事にしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にドライブに出掛け思い出を喚起しています。ご家族に協力いただき馴染みのお店で散髪される方もいます。	馴染みの床屋へ家族や職員が送迎している。ドライブで自宅のあった跡地を見に行くことを継続している。家族と手紙のやり取りをしている。趣味が続けられるよう材料を揃え、雑巾や足拭きマットを作ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で情報を共有し利用者同士の関係を把握しています。必要時には職員が間に入り円滑な関係が保てるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際に困ったことあれば連絡いただくよう声掛けをしています。 退所後に感謝の意味を込め、ホームでの生活の様子をフォトブックにしてお渡ししました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人の様子を観察し、意向や思いを把握できるよう努めています。把握が困難な場合はご家族に相談し検討します。	「外に出たい」にドライブで応えている。その人の思いを引き出す優しい言葉かけを大事にしている。新入居者と互いの自己紹介から毎日が始まる。入居者の「帰りたい」思いに共感しながら、楽しく過ごす工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に実態調査の際に生活歴や日常生活の様子を詳しく聞き取り情報収集を行います。また、これまでにサービスを利用した事業所にも聞き取りを行います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子や変化について記録・申し送りを行い職員間で情報を共有しています。また定時にバイタル測定を行い体調を確認しています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、毎月のミーティングの際にモニタリングを行い、またご家族の意見を取り入れながら介護計画の見直しを行なっています。	家族意向の「現状を維持」に、今出来ている家事動作を続けることを援助方針とし、食器拭きや洗濯物たたみ、声かけで失禁の軽減などをサービス内容に入れた。本人や家族の意向にそった介護目標を掲げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実践結果や日々の様子を記録し情報を共有して、統一したケアができるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や地域の方の協力をいただきながら、外出や余暇活動など、ご本人の希望に対応できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際や広報から地域の情報収集を行い地域資源を把握します。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期受診は家族と事業所で協力して行なっています。ご家族が受診支援をする際は日常の様子を文書にしてお渡ししています。受診結果は記録しご家族と職員間で情報を共有します。	各かかりつけ医を、職員又は家族が同行して受診している。訪問看護師が週1回、来訪している。「感染対策の基本指標」があり、感染者が出た際の対応訓練を行っている。医師から日光浴の助言がありプランに入れた。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制としてオンコールで訪問看護ステーションとやりとりをしています。週1回の訪問があり健康チェックをしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に病院とご家族に連絡し情報をいただいています。早期退院ができるようにご家族や病院と情報交換を行なっています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化した際の指針を説明し意向を確認しています。重度化した場合には状態の変化に応じて、家族、主治医、事業所で話し合いの場を設けています。	「重度化した場合における対応に関する指針」の文書があり、最期をどう迎えたいか確認し、終末期対応の希望を口頭で聞いている。「終末期に向けての対応マニュアル」があり、看取りを行う場合の事前行動が記されている。家族は入院を希望することが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを設置しています。ミーティングの際に説明し、急変時や事故の際に対応できるよう備えています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、気仙沼消防署立ち合いの下で避難訓練を実施しています。実際の災害が起こり避難した際は地域の方に利用者の見守りをお願いすこととしています。	署員の指示で隣接する通所事業所職員への救援要請を行った。講評に火元に近い順に避難する事や周囲に知らせる声を出す等があった。消火器を使った模擬訓練もした。訓練の大切さを感じたとの職員感想があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみのある会話の中でも丁寧な言葉を使うよう気を付けています。特に入浴や排泄介助の際は自尊心や羞恥心に配慮した声掛けを行なっています。	大声で突如歌い出す入居者とのトラブルを回避し、ピアノを弾いて皆で歌うレクリエーションに置き換えるなど、排除ではなくその人を受け入れるケアを工夫している。職員の提案でクリスマスプレゼントに靴下を贈った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話からご本人の思いを汲み取れるよう努めています。職員が忙しい場合でも話を聞く時間を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事は同じ時間に声掛けをしますがその時の状況でご本人のペースを優先するよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴の際に季節や気温に合わせた服をご本人と相談しながら決めていきます。近所の床屋に行かれる方、訪問理容を利用される方、馴染みの美容室に出掛ける方がいます。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材やメニューなど利用者と相談して取り入れています。食事の準備や片付け等、できることは職員と一緒にこなしています。	入居者の食事を楽しむ姿に職員も幸せを感じており、行事食やおやつ作り、食のイベントなどに力を入れている。外でのバーベキューやピザ作り、流し素麺、クッキー作り、新米を食す会、蕎麦打ちなど多彩である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や摂取量等、一人ひとりに合わせて提供しています。また栄養バランスについてはデイサービスの調理師に相談しアドバイスをもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、就寝時や食後に歯磨きやうがいの声掛けを行なっています。自分で行うことが困難な方には職員が支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄が行えるよう、排泄チェック表を活用して排泄パターンを職員間で共有し、声掛けや誘導を行なっています。	失敗時には小声で誘導し、「自分だったらどう対応して欲しいか」を考えて対応している。羞恥心から我慢してしまうことなど、入居者のそれぞれを把握し対応している。チェック表の活用でパッドの使用量が減った。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や訪問看護への相談の他、毎日の軽体操や腹部マッサージを実施、乳製品の提供を行うなどして便秘予防に努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	概ね3日に1回のペースで入浴されています。ご本人のその日の気分によって時間帯を調整しています。ご本人の希望で毎日入浴される方もいます。	入浴を拒む要因を探る中で、家族から「温めが好きだった」ことを聞き対応できた。家族の差し入れを活かして柚子湯や菖蒲湯を楽しんでいる。浴槽内に滑り止めマットを敷き、洗い場ではシャワーチェアを利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に合わせた時間にお昼寝や就寝を促しています。室温や照明についても利用者に確認しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬の情報について一覧を作成し職員間で共有しています。症状に変化があった際は主治医に相談し、薬の変更があった場合はその後の様子を記録して主治医に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かす家事手伝いやレクリエーションを提供しています。趣味についてはご本人の意向で行なったり、ご家族に相談しアドバイスをいただいています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ希望に添えるよう対応していますが感染症対策であまり外出はできませんでした。下車しないドライブや天気の良い日は敷地内での日光浴や散歩を行い、外に出る工夫をしています。	神山川の花見や大島へのドライブ、紫陽花見学、紅葉散策など外出の頻度を減らさない努力をしている。感染防止の現在も、トイレ休憩なし等の工夫をしながら「海風を浴びる」ドライブをしている。外で職員リレーを応援するなど外気浴の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で各利用者のお小遣いを管理しています。少額のお金を持ち、職員と買い物に行く方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住んでいる家族より手紙が届きやり取りを行なっている方がいます。電話の希望があった際はご家族に繋いでいます。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは季節の飾りを利用者と一緒に作成して装飾し季節を感じていただいています。家具の配置を工夫し利用者の動線に配慮しています。	ホールは日に2回の消毒と1時間毎の換気を行っている。テーブルでの対面感染に配慮して透明の亚克力板衝立を置いている。アクティビティは密にならないよう、個別のゲームなどを工夫し楽しんでいる。通年、家族が季節の花々を飾ってくれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所で過ごせるようテーブルやソファを配置しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人と相談しながらご家族に協力していただき、馴染みの家具を居室に持ち込み使用されています。位牌や家族の写真を置く方もいます。	各居室に洗面台があり、髭剃りや整容など自分でしている。愛用のラジオの電池が切れたと職員と買いに行く人がいる。ゴザを敷き、座布団を置いて和室風に設えるなど、好きなように過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動ができるよう動線を確保しています。居室の入り口には表札を掲示し、自分の部屋、他者の部屋が分かるようにしています。		